



常盤中学校だより

令和 7年 9月 8日

No. 10

四日市市立常盤中学校

《学校教育目標》 生き生きと輝く

全国学力・学習状況調査の結果より

3年生を対象に4月17日に実施された令和7年度の全国学力・学習状況調査（国語・数学・理科・生徒質問紙生活調査）における本校の結果について、傾向（強みと弱み）等をまとめました。この調査の目的は、学習や生活の状況を把握するとともに、より効果的な教材や学習の進め方や生活等を検証し、指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。今回の調査結果を踏まえ、各教科の指導方法等の改善や生活面等への指導・支援に活かしていきたいと考えます。



1 学力調査からみられる本校3年生の特徴（強みと弱み）

【国語】

正答率は、半分以上の問題で全国平均を上回っていますが、無回答率も全国平均を上回っています。特に記述式問題を中心に大きく上回っていることから、文章を書くことに苦手意識を持っている生徒が多いことがうかがえます。また、問題形式別にみると、選択式での正答率が高く、記述式の正答率が低いことがわかりました。

今後は、過去に学習した内容を活用して答えを導き出せるような課題を設定するなどして、丁寧に授業を進めていきたいと考えます。特に記述式問題については、自分で考えを整理して、文章を作る練習を多く取り入れていきます。

【数学】

正答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っていて、無回答率も全国平均を下回っていることから、前向きに粘り強く取り組んでいることがわかります。領域別では、どの分野においても、全国平均を2ポイント以上上回りました。特に図形分野では、全国平均を7ポイント上回り、筋道を立てて考え証明することができました。また、数と式の分野では、式の意味を読み取ることや説明することができました。2年時のみえスタディチェックでは、関数分野で苦手な傾向が出ていましたが、少し改善されました。新たな課題としては、データを利活用する問題が少し苦手な傾向があることがわかりました。

今回平均を上回った記述式問題は、小テストの振り返りや思考力を問う問題に対して、自分なりの考えを自分の言葉で書く機会を設定してきた成果だと考えます。図形の証明のように筋道を立てて説明することやデータの利活用に関する問題を解決するために、今後も少人数授業を活用し、個々の能力を伸ばすことで課題を解決したいと考えます。

【理科】

正答率は、多くの問題で全国平均を上回っています。特に、生命の単元と電流の単元で大きく全体平均を上回っています。問題形式では、選択式での正答率が比較的高くなりました。しかし、無解答率も平均より高く、特に記述式や短答式の問題で苦手とする傾向が見られました。

今後は、履修内容との関わりを大切にしながら、観察・実験をとおした生徒の興味・関心をひくような指導とともに、他者の考えを自分の考えと比較しながら聴くこと、気づいたことを言語で表現することを粘り強く指導していきたいと考えます。

2 生徒質問紙からみられる特徴



【学習面】

平日 2 時間以上、休日 3 時間以上、授業時間以外に学習していると回答した生徒の割合は、三重県や全国と比較して多く、学習習慣がついている生徒が多いことがわかります。

(設問)「平日 2 時間以上勉強している」・・・本校 34.2%、県 28.5%、全国 30.8%

(設問)「休日 3 時間以上勉強している」・・・本校 15.2%、県 10.7%、全国 13.8%

三重県や全国と比較して、タブレットを使いこなせていると考えている生徒は少ないようです。タブレットを使用する機会を増やすとともに、さまざまな活動を通して自分で情報を収集したり、プレゼンテーションを作成したりする力もつけて行く必要があります。

(設問)「ICT 機器で文書を作成することができますか」・・・本校 77.9%、県 84.9%、全国 83.6%

(設問)「インターネットを使って情報を収集できますか」・・・本校 89.5%、県 92.1%、全国 91.5%

(設問)「自分でプレゼンテーションを作成できますか」・・・本校 64.7%、県 72.3%、全国 76.6%

課題解決に向けて自分から取り組んでいる生徒が多い一方で、資料を収集し、活用しながら発表することは苦手であることがわかります。各教科や総合の授業の中で、資料を用いた発表の機会を設けることが重要であると考えられます。

(設問)「自分の考えを工夫して発表していましたか」・・・本校 56.8%、県 61.1%、全国 63.0%

【生活面】

基本的生活習慣等について

「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時間に起きていますか」の設問に、それぞれ 90.0%、84.2%、91.6% の生徒が肯定的な回答をしています。設問 1、3 については、県や全国の結果をやや下回る結果ですが、設問 2 は全国の結果より 3.2 ポイント上回っており、規則正しい生活習慣が比較的整っているといえます。

挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等について

(設問)「自分には、よいところがあると思いますか」・・・本校 88.9%、県 86.8%、全国 86.2%

(設問)「将来の夢や目標をもっていますか」・・・本校 71.1%、県 68.8%、全国 67.5%

(設問)「自分と違う意見について考えるのは楽しいですか」・・・本校 84.8%、県 80.4%、全国 79.2%

上記の質問では、肯定的な回答が三重県や全国と比較して多く、自分を肯定的にとらえたり、将来への展望を前向きにとらえたりしているということがわかります。その一方で、

(設問)「人が困っているときは、進んで助けていますか」・・・本校 90.5%、県 91.1%、全国 90.9%

(設問)「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」・・・本校 93.2%、県 96.4%、全国 95.9%

と、三重県や全国平均をやや下回っている。協力することや社会性、人権意識をはぐくむ活動の強化が必要であると考えます。



3 今後の取組について

上記のような本校の成果と課題を見据え、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の一体的な充実を図り、対話的な学びへとつなげていくために、学校として研修を深め授業改善に取り組むとともに、以下のような家庭学習の定着・工夫に向けた取組を実践していきたいと考えています。

【宿題】

各教科で、家庭学習の習慣化につながる課題（宿題）のさらなる充実を図ります。L-gate、ドリルパークなどを活用し、生徒が自ら必要な学習を判断し、適切な家庭学習に取り組めるよう、OODA ループの発想を根幹（学年集会、三者懇談、教育相談を通して）に据えて、家庭学習を進めます。

【Toki ノート】

「Toki ノート」の位置づけを、今一度議論し、家庭学習につなげられるツールとして活用していきます。家庭学習の習慣化や、授業、朝学習、帰り学習（T o k i 1 0）との連携について、学校全体で統一した取組を進めていきます。

【タブレット】

毎日持ち帰るタブレットを使って、ドリルパーク、i プリントだけでなく、家庭で取り組める課題（宿題）を各教科で調整しながら設定していきます。